

日本都市計画学会

学 会 賞

特別功労表彰 功績賞・国際交流賞

2025年 年間優秀論文賞

受賞一覧ならびに授賞理由書

公益社団法人

日本都市計画学会

# 目 次

## 1. 学会賞

1) 受賞作品 .....	1
2) 選考経過 .....	2
3) 授賞理由 .....	3

## 2. 特別功労表彰 功績賞・国際交流賞

1) 受賞者 .....	8
2) 選考経過 .....	9
3) 授賞理由 .....	10

## 3. 2025 年 年間優秀論文賞

1) 受賞論文 .....	12
2) 選考経過 .....	12
3) 授賞理由 .....	13

## 日本都市計画学会 学会賞受賞者

(受賞者敬称略)

### <計画設計賞>

郊外における共創による持続可能な「えきから始まるまちづくり」

～枚方市駅周辺地区第一種市街地再開発事業および駅周辺まちづくりの取り組み～

枚方市駅周辺地区市街地再開発組合（一般業務代行者：株式会社アール・アイ・エー）、  
京阪ホールディングス株式会社、株式会社大林組、枚方 HUB 協議会（枚方 LOOP 実行委員会）、  
デザイン監修チーム（嘉名光市、株式会社日建設計、株式会社 GK 京都、株式会社 GK 設計）

麻布台ヒルズ 一大街区連携更新型都市再生のキープロジェクト

虎ノ門・麻布台地区市街地再開発組合、港区、  
森ビル株式会社、株式会社日本設計

新さっぽろ駅周辺地区におけるまちなか集積医療・まちなかキャンパスによる地方都市拠点の再生

大和ハウス工業株式会社、大成建設株式会社、株式会社ドーコン、  
一般社団法人新さっぽろエリアマネジメント、札幌市

グランドプラン・グランドデザインに基づく浜甲子園団地再生事業によるまちづくり

～都市デザイン、コミュニティデザインの約 30 年のプロセスとその成果～

独立行政法人都市再生機構（西日本支社）、浜甲子園団地デザイン協議会  
浜甲子園団地再生協議会、武庫川女子大学、一般社団法人まちなか浜甲子園

聖蹟桜ヶ丘北地区における官民連携の街づくり

多摩市、東京建物株式会社、株式会社東栄住宅、  
京王電鉄株式会社、伊藤忠都市開発株式会社

### <論文奨励賞>

未指定文化財に対する代替的保全制度の実態

阿部 由香里

プレイスペースド・プランニング：理論枠組みと分析技法

井上 拓央

都市機能集積の観点から見た韓国の地方都市における拠点に関する研究

朴 成萬

通行空間の不整に着目した戦後産業集積地の形成における計画性の階調 JR 岐阜駅前織維問屋街を事例に

清山 陽平

都市計画におけるジェンダーに関する一連の研究 一都市計画審議会と賃貸住宅選択を対象として一

土屋 泰樹

教育運動型学園町の地域形成理念と歴史的環境保全 一大正新教育実践校を中心とした地域を対象として一

玄田 悠大

コミュニティに生きる建築：地域文脈をつなぐ建築の社会的物質性

新 雄太

### <著作賞>

ガチャコン電車血風録—地方ローカル鉄道再生の物語（岩波ジュニア新書）

土井 勉

2030-2040 年 日本の土地と住宅（中公新書ラクレ）

野澤 千絵

# 日本都市計画学会

## 学会賞 選考経過

2025 年度学会賞は、会員が推薦した石川賞候補 1 件、計画設計賞候補 5 件、論文奨励賞候補 8 件、著作賞候補 2 件、計 16 件が審査の対象となった。

表彰委員会（学会賞選考分科会・委員全 15 名）は各々の候補の業績について複数の担当審査委員が独立に査読および調査を実施し、各委員から提出された評価にもとづき、分科会で慎重に検討の結果、授賞候補を選定した。

特に評価の分かれた案件については委員会席上でその結果を照合、討論、協議し、分科会の最終審査結果とした。さらに分科会の審査結果を理事会に諮って、計画設計賞 5 件、論文奨励賞 7 件、著作賞 2 件の授賞を決定した。

---

### (参考)各賞の授賞対象

#### 石川賞

都市計画に関する独創的または啓発的な業績により、都市計画の進歩、発展に 顕著な貢献をした個人または団体を対象とする。

#### 計画設計賞

都市計画に関する計画、設計、事業などに関する近年（概ね過去 3 年以内）の作品で、都市計画の進歩、発展に顕著な貢献をしたものを対象とする。

#### 論文賞

都市計画の進歩、発展に顕著な貢献を認められる研究論文を近年（概ね過去 3 年以内）発表した会員（個人）を対象とする。

#### 論文奨励賞

都市計画に関する将来性・発展性が顕著な研究論文を最近（過去 1 年以内）発表した会員（個人）を対象とする。

#### 著作賞

都市計画に関する近年（概ね過去 3 年以内）の出版物で、都市計画の進歩、発展に顕著な貢献をしたものを対象とする。

計画設計賞	
作品名	郊外における共創による持続可能な「えきから始まるまちづくり」 ～枚方市駅周辺地区第一種市街地再開発事業および駅周辺まちづくりの取り組み～
受賞者	枚方市駅周辺地区市街地再開発組合、京阪ホールディングス株式会社、 株式会社大林組、枚方 HUB 協議会、デザイン監修チーム
授賞理由	本事業は大阪府枚方市の枚方市駅周辺において、多機能・複合的な都市基盤整備、歩行者回遊性の向上、広場空間の創出などによって、エリア価値向上につながる面的整備が図られた事業である。地権者や再開発組合だけでなく、鉄道会社、市役所、地域住民など多様なステークホルダーがそれぞれの立場で「共創」して事業を展開してきた。デザイン監修チームによるトータルデザイン、エリアマネジメントを担う準備組織の立ち上げなど、今日的な価値観をちりばめた秀逸なまちづくり事例である。駅周辺の人流の増加、賃貸レジデンス入居率、周辺の人流増加など、地域の活性化に寄与したことはデータでも裏付けられている。都市計画法、都市再開発法などを横断したユニークな事業スキームや、マルチスケールなデザインガイドラインは、今後の郊外駅前を中心としたまちづくりに大いに参考になると考えられることから、日本都市計画学会計画設計賞に相応しいと判断した。

計画設計賞	
作品名	麻布台ヒルズ 一大街区連携更新型都市再生のキープロジェクト
受賞者	虎ノ門・麻布台地区市街地再開発組合、港区、森ビル株式会社、株式会社日本設計
授賞理由	本作品は、35年を要して300人の権利者との綿密な調整をへて、大規模な土地利用転換と道路ネットワークの形成を官民連携のトータルマネジメントで達成したプロジェクトである。応募名にある「大街区連携更新型都市再生」を文字通り実現しており、類を見ない大規模かつ長期にわたる再開発の秀逸な作品と言える。 谷戸地形で起伏のある土地の高低差を利用し、広場を中心に緑豊かな生活空間とシームレスな歩行者の移動空間の実現、綿密な計画にもとづく大規模かつ高質な構造物等の整備、大街区南端の空間的な分断を解消する車道による域内外の交通の円滑化を実現してことが評価される。地域主体で持続可能なエリアマネジメントに取り組み、街を育もうとするそのプロセスは今後の市街地再開発事業に参考となる事例であり、日本都市計画学会計画設計賞に相応しい作品である。

計画設計賞	
作品名	新さっぽろ駅周辺地区におけるまちなか集積医療・まちなかキャンパスによる地方都市拠点の再生
受賞者	大和ハウス工業株式会社、大成建設株式会社、株式会社ドーコン、 一般社団法人新さっぽろエリアマネジメント、札幌市
授賞理由	本事業は、新さっぽろ駅周辺の公共交通結節点に、医療・教育・商業・宿泊・住宅の諸機能を高度に集積させた複合開発である。郊外にあった医療施設や大学を駅前に誘致し、ミクストユースの拠点化を実現している。敷地ごとの個別開発ではなく空間を共有・集約する「ハイブリッド・シェア型」の手法を導入することで、余剰空間を魅力的な公共空間に再配分し、歩行者ネットワークや広場の整備につなげ、まちなかの賑わいや滞留機能の向上を実現している。また、街区内の複数施設を結ぶ楕円形の屋内空中歩廊「アクティブ・リンク」は、シンボリックな景観を形成するだけでなく、建物間の連携と回遊性を高めている。以上のように、本事業は駅前の多機能集積と歩行者ネットワーク形成を通じて地方都市の中心拠点を再生する先進的なモデルであり、日本都市計画学会計画設計賞に相応しいと判断した。

## 計画設計賞

作品名	グランドプラン・グランドデザインに基づく浜甲子園団地再生事業によるまちづくり ～都市デザイン、コミュニティデザインの約30年のプロセスとその成果～
受賞者	独立行政法人都市再生機構(西日本支社)、浜甲子園団地デザイン協議会、 浜甲子園団地再生協議会、武庫川女子大学、一般社団法人まちなね浜甲子園
授賞理由	本事業は、団地再生事業を30年間の長期プロジェクトとして推進し、基本構想の策定からデザイン指針、まちづくり協定、地区計画の策定などを経て、自治体、居住者、周辺団体・事業者とも連携しながらまちづくりを行い、加えて、事業着手前よりPPPによるエリアマネジメントや住民参加等にも取り組むことにより、持続的運営の自立性を確立している点は特筆に値する。わが国では、これまでも、そして、これからも大規模団地の建替え(団地再生)事業が行われることとなるが、①事業の着手段階で長期にわたる基本的な構想と枠組みを策定したこと、②まちをつらぬくブルーバールを中心とした空間計画の策定、③良好な景観の誘導策とデザイン指針の策定などにより、魅力ある居住空間をつくり、住民主体のエリアマネジメントまでつなげたこと、は高く評価でき、持続可能性を考慮した団地再生のモデルとして、日本都市計画学会設計計画賞に相応しい成果であると判断した。

## 計画設計賞

作品名	聖蹟桜ヶ丘北地区における官民連携の街づくり
受賞者	多摩市、東京建物株式会社、株式会社東栄住宅、京王電鉄株式会社、伊藤忠都市開発株式会社
授賞理由	本事業は、聖蹟桜ヶ丘駅から北へ徒歩5分という好立地にありながら低未利用地となっていた地区において、パブリック・マインドを持った民間事業者が、行政や地域団体、他の民間事業者等と連携して個人同意施行の土地区画整理事業を実施したものである。本事業が優れている点としては、公費負担が少ない民間主導の事業の中で、駅周辺と多摩川河川敷を結ぶ立体遊歩道や商業施設等の整備による賑わい・回遊性の向上と、高規格堤防や防災広場等の整備による防災性の向上を実現しており、地域への貢献度が高いことがある。また、水害に配慮した高層マンション上層階への電気設備等の設置や、首都圏発の超高層ZEH-Mの取得などの先進性を有することや、多摩川河川敷を利用して持続可能な街づくり・街育てを推進するエリアマネジメントに取り組んでいることも評価でき、これからの官民連携の街づくりへの示唆に富むモデルとして、日本都市計画学会設計計画賞に相応しいと判断した。

論文奨励賞	
作品名	未指定文化財に対する代替的保全制度の実態
受賞者	阿部 由香里
授賞理由	<p>本論文は、文化財保護制度の外縁に位置する歴史的建築物、いわゆる「未指定文化財」の保全に着目し、その支援制度の構造と形成過程を多角的に分析した研究である。自治体条例や全国的動向について、ヒアリングや法制度、運用事例の分析を通じて実証的に検討している点は評価できる。とりわけ、未指定文化財の消失を抑制するためのセーフティネットとして導入された「解体事前届出制度」について、自治体の実情に応じた制度設計の差異を整理し、その制度的特徴を明らかにした点は高く評価できる。また、建築基準法適用除外制度（その他条例）に関して、既存建築物が現行基準に適合しにくいという構造的問題を自治体条例によっていかに調整し得るかという制度的課題を理論的に整理した点も重要である。さらに京都市の事例分析から、中間支援組織や専門家ネットワークの成熟が未指定文化財保全の主體的基盤を形成していることを示した点は示唆的であり、今後の制度運用にも有益な知見を与える研究として、日本都市計画学会論文奨励賞に相応しいものと判断した。</p>

論文奨励賞	
作品名	プレイスペースド・プランニング：理論枠組みと分析技法
受賞者	井上 拓央
授賞理由	<p>本論文は、場所に着目する都市計画アプローチについて、実践が先行する一方で理論化が十分でなかった状況に対し、「プレイスペースド・プランニング」という新たな理論枠組みと、それを地区スケールで実践するための分析技法を提示した意欲的な研究である。地理学、環境心理学、都市計画理論等の知見を踏まえて場所概念を再構成し、アッサンプラージュ理論を導入して都市計画理論として位置づけ直した点に高い独創性がある。さらに、各国の都市計画実践の比較分析や東京都国立市での実証を通じて理論の妥当性を丁寧に検討するとともに、場所の分析単位の設定、価値の類型化・推定、特性把握に関する方法論を提示し、実務への応用可能性も具体的に示している。以上より、本論文は日本都市計画学会論文奨励賞に相応しいと判断した。</p>

論文奨励賞	
作品名	都市機能集積の観点から見た韓国の地方都市における拠点に関する研究
受賞者	朴 成萬
授賞理由	<p>本論文は、人口減少が深刻化しつつある韓国の地方都市を対象に、都市機能が集積する「拠点」に着目し、諸制度や拠点都市開発の変遷、都市機能の実態・変化を分析して、今後のための拠点計画論を示している。地方都市の課題に向き合う国土政策を日韓両国で整理した上で、「農村中心地における実態に即した拠点間連携構築の必要性」、「商業集積地での公共サービス機能と商業とが連携した集積の推進」、「中商一近商一都市生活圏の農村中心地といった階層的拠点機能を空間スケールで横断する政策体系再編の必要性」などを提案している。市街地中心や郊外の拠点にとどまらず、その後背地にある農村地域も含めて詳細に研究されていることから、本業績は地方都市の拠点論に有益な示唆を与えるものである。本研究成果のさらなる発展と、その成果が都市計画論文集で多数公表されることを期待して、日本都市計画学会論文奨励賞に相応しい内容を有していると判断した。</p>

論文奨励賞	
作品名	通行空間の不整に着目した戦後産業集積地の形成における計画性の階調 JR 岐阜駅前繊維問屋街を事例に
受賞者	清山 陽平
授賞理由	本論文は、戦後産業集積地である JR 岐阜駅前繊維問屋街を対象に、通行空間の形態、とくにその「不整」に着目しながら、街区形成の過程を精緻に復原した研究である。戦災復興土地区画整理事業の資料や土地宝典、位置指定道路の指定状況、住宅地図など多様な史料を用いて、複雑で非計画的に見える問屋街の通行空間が、土地利用の変化や民間主体の建設行為、流通活動を支える共販所と通路空間の成立などを通して段階的に形成されてきた過程を丁寧に可視化している。とりわけ、公的な戦災復興事業の枠組みと、問屋街における民間主体の建設行為や複数地権者の調整による空間形成との関係を実証的に示した点は、都市計画史研究に新たな視点を提示するものである。本論文はこれらを「計画性の階調」という概念で整理し、戦後都市形成を計画／非計画の二分法を超えて捉え直そうとする意欲的研究として高く評価できる。以上のことから、本論文は、日本都市計画学会論文奨励賞に相応しいと判断した。

論文奨励賞	
作品名	都市計画におけるジェンダーに関する一連の研究 —都市計画審議会と賃貸住宅選択を対象として—
受賞者	土屋 泰樹
授賞理由	本一連の研究は、わが国の都市計画におけるジェンダーの扱いと課題を明らかにしたものである。一つには、性別及び子どもの有無による賃貸住宅選びの条件の違いの賃料への影響、違いについての人々の意識構造を調べ、都市におけるジェンダー格差の存在とその不利益の存在を明らかにすることで社会に問題を提起している。また一つには、都市計画審議会、都市計画マスタープラン策定の場における女性の参画状況を調べ、計画決定の過程及び結果におけるジェンダー面からの課題を明らかにしている。このような時宜を得た主題に対し、理念が先行することなく現場の視点に立って課題を引き出し、綿密かつ丁寧に考察が為されている点が高く評価される。以上より、本論文は日本都市計画学会論文奨励賞に相応しいと判断した。

論文奨励賞	
作品名	教育運動型学園町の地域形成理念と歴史的環境保全 —大正新教育実践校を中心とした地域を対象として—
受賞者	玄田 悠大
授賞理由	本論文は、教育機関と住宅地を組み合わせで開発された「学園町」の形成過程を、成蹊学園と自由学園を対象に豊富な史料に基づき、その地域形成理念の形成・展開と歴史的環境保全を丹念に分析した力作である。地域形成理念を、物的環境、人的環境、制度的環境の3つの軸で整理し、土地取得時から現在のコミュニティ形成までの長期の時間軸と幅広い分野を丁寧に扱い分析しており、学術的に価値が高いものとなっている。特筆すべき評価として、日本における学園町の誕生を、イギリスをはじめとする諸外国の新教育運動と田園都市構想の動きも押さえながら、対象地区における新教育運動と地域開発という異なる分野の関係性を明らかにしている点である。自由学園においては遠藤新執筆の全ての言説を対象に丁寧かつ的確に行っており、感服する。教育史、生活史を踏まえた学際的視点から地域の歴史的環境保全のあり方も示しており、日本都市計画学会論文奨励賞に相応しいと判断した。

論文奨励賞	
作品名	コミュニティに生きる建築:地域文脈をつなぐ建築の社会関係的物質性
受賞者	新 雄太
授賞理由	<p>本論文は建築物を中心に素材から町並みまでスケールを変えつつ、それと人間との関係性を再考し、社会関係資本(ソーシャルキャピタル)への影響を分析的に研究したものである。素材(茅・麻)・建物・町並みという取り上げ方で、その価値や住民のコミュニティ意識の変化を明らかにしている。分析には対象地に通ってのヒアリング、数千票の住民アンケートなどを精力的に行い、さらに主成分分析や多項ロジスティック分析など多様な手法を用いている。また、これら分析の前段における基礎調査・レビューでは国内外の多くの文献を踏まえている。研究のまとめではコミュニティ構成員の役割分担、個々が有する技術の人間関係構築への効果、社会的ネットワーク形成への効果が整理されているだけでなく、新規参加者によるジレンマの発生にも光を当てるとともに、この研究の限界まで考察している。以上より、本論文は日本都市計画学会論文奨励賞に相応しいと判断した。</p>

著作賞	
作品名	ガチャコン電車血風録ー地方ローカル鉄道再生の物語(岩波ジュニア新書)
受賞者	土井 勉
授賞理由	<p>本書は近江鉄道の再生協議プロセスを時系列的に整理し、地方鉄道がどのようにして存続への道を見いだしたのか、関係者の議論と取り組みについてリアリティある著述で丁寧に追っている著書である。存廃の判断を感情論にせず、データやファクトを軸に議論する姿勢の下、近江鉄道が県や自治体と協議を重ね、「上下分離方式」という新たな仕組みで存続を模索していく過程は、赤字に苦しむ他の地方鉄道にとって実践的な教科書の役割を果たす可能性に満ちている。また、バス事業と鉄道事業の違い、歴史的経緯、公共交通衰退や鉄道廃止の原因をターゲットとなる小中高生に分かりやすく説明しており、未来を担う若者たちが地域公共交通に興味・関心を持ってもらうことで地域社会の問題意識の喚起につながることを期待される。以上より、本書は日本都市計画学会著作賞に相応しいと判断した。</p>

著作賞	
作品名	2030-2040年 日本の土地と住宅(中公新書ラクレ)
受賞者	野澤 千絵
授賞理由	<p>本書は、東京近辺で深刻化する住宅価格高騰の要因を明快に解明し、その背景にある現行の都市計画制度が抱える構造的問題を的確に指摘している。具体的に、規制緩和と民間主導の潮流が駅前再開発におけるタワーマンションの乱立を招いた背景と課題を具体的に記述し、さらに相続等に伴う2030-40年代の住宅ストック供給増に関する実証分析と考察を提示している。都市計画研究者ならではの俯瞰的視座に基づく分析と考察が展開されている。日本の都市計画・住宅政策の課題を鋭く、かつ分かりやすく解説した本書は、学会関係者のみならず、広く一般市民にも読んでいただく価値のある内容となっている。また、本書の内容は国・地方自治体の政策形成にも影響を及ぼしており、学術的提言が実際の政策変革を牽引する優れた業績といえる。以上より、本書は日本都市計画学会著作賞に相応しいと判断した。</p>

## 日本都市計画学会 特別功勞表彰 功績賞・国際交流賞受賞者

(受賞者敬称略)

### <功績賞>

相羽 康郎	NPO 法人まちづくり山形 理事長
川上 光彦	金沢大学 名誉教授
増田 昇	大阪府立大学名誉教授・LA まちづくり研究所

## 日本都市計画学会

### 特別功労表彰 功績賞・国際交流賞 選考経過

2026年日本都市計画学会特別功労表彰 功績賞・国際交流賞は、理事・監事・会長アドバイザー会議メンバー各位に候補者の推薦を募ったところ、候補者の推薦があった。これを受け、表彰委員会（委員全10名）が慎重に検討した審査結果を理事会に諮って、功績賞3名の授賞を決定した。

---

#### (参考)特別功労表彰(功績賞・国際交流賞)の授賞対象

##### 功績賞

長年にわたって都市計画学の進歩、発展に寄与してきた者でその貢献が社会的、学問的に見て顕著な者を対象とする。

##### 国際交流賞

長年にわたって都市計画の国際的交流に携わり海外諸国との交流並びに啓発普及と人材育成に貢献した者（外国人・日本人）を対象とする。

功績賞	
受賞者	相羽 康郎(NPO 法人まちづくり山形理事長)
授賞理由	<p>相羽康郎氏は1985年に早稲田大学理工学研究科を修了後、森記念財団、(財)日本経済研究所、東京大学を経て、東北芸術工科大学にて設立年から2018年まで26年間教鞭を執った。</p> <p>この間、本会を中心に精力的に多大な活動・貢献をなされた。日韓台国際シンポジウム立ち上げ期に諸先生と台湾訪問への参加、国際委員会での台湾担当委員としての活動など、国際学術交流の開始期に貢献している。また、21世紀初頭に東北支部の設立を依頼され、東北各県及び新潟県の主立った大学の教員の参加を引き出すことに成功し、東北支部設立の準備を進めた。東日本大震災で大変な状況であったが、2011年に支部設立を導いている。さらに、初代支部長を4年間にわたって務められた。また、東日本大震災への対策にも精力的に対応し、他学会などと議論を重ね、多くのシンポジウムを開催している。</p> <p>また、山形県を中心に都市計画に関係する業績も数多く、1990年代から2000年代にかけて都市計画道路の沿道景観まちづくり及び歩道のデザインを実現した。その他県下の広場・歩道等のデザインを担当し、PFI事業の審査委員長を務めている。大学退職後も、特定非営利活動法人“まちづくり山形”の理事長として精力的に活動を続けている。</p> <p>以上のように相羽氏は、日本都市計画学会の会員として、特に東北支部設立の中心的貢献者と言える。さらに業績書に見るように都市計画に関する多数の業績・活動をしていることを鑑みると、日本都市計画学会功績賞を授与するに相応しいと判断した。</p>

功績賞	
受賞者	川上 光彦 (金沢大学名誉教授)
授賞理由	<p>川上光彦氏は、1970年に京都大学工学部建築学科を卒業、1972年同大学大学院工学研究科を修了の後、1976年金沢大学工学部助手に採用され、1991年の教授昇任を経て退職されるまでの37年間、都市計画制度や歴史的市街地を中心に幅広い研究活動を行い、多くの優秀な人材を育成するとともに、大学の運営にも貢献されている。また、地域のまちづくり活動のリーダーとしても活躍し、地域の発展に大きな足跡を残し、その活動の多くは現在も受け継がれている。</p> <p>本会における活動としては、数多の論文等を執筆・指導するとともに、1996年から評議員を6年半務め、2012年に会長アドバイザー会議委員となっている。また、1994年の中部支部研究発表会、2000年の学会金沢大会の実行委員長として成功に導いている。</p> <p>研究活動においては、都市計画制度の中心的研究者の一人として、多くの論文や編著をなすとともに、それらの知見をまとめた「都市計画 (現在第4版)」は、多くの学生や実務者の教育書として活用されている。金沢大学が歴史都市金沢に立地することから、歴史的市街地の都市計画に関する研究にも力を注ぎ、金沢独自の都市計画制度の確立に貢献するとともに、「NPO 法人金澤町家研究会」を立ち上げ、歴史的資産の保全・活用活動も実践されている。また、2024年の能登半島地震を受けて、個人的に現地の視察を繰り返すとともに制度面を含めた現状を分析し、現在そのレポートは22編を数え、学会のシンポジウムや各種会合での講演などに活かされるとともに、復興に関わる方々の拠り所ともなっている。</p> <p>以上のように、川上光彦氏は、本会での貢献に加え、地方都市における都市計画制度の確立に大きな足跡を残すとともに、実践や人材育成を通じた地域のまちづくりの発展に様々な功績をあげられている。よって日本都市計画学会功績賞を授与するに相応しいと判断した。</p>

## 功績賞

### 受賞者

増田 昇(大阪府立大学名誉教授・LA まちづくり研究所)

### 授賞理由

増田昇氏は、1975年にカリフォルニア大学バークレー校環境デザイン学部造園学科修士課程に留学後、1977年に大阪府立大学大学院農学研究科農業工学専攻修士課程を修了された。同年から株式会社市浦都市開発建築コンサルタンツにて、泉北ニュータウンやトリヴェール和泉などのマスタープランの作成や住宅団地の計画・設計の実務に従事された。その後、1985年に大阪府立大学の農学部助手に赴任され、1997年に教授に就任、2013年からは同生命環境科学研究科長・農学部長を務められた。また、2015年に大阪府立大学地域連携研究機構・植物工場研究センター長に就任された。住環境における緑地計画に関する研究や都市公園のマネジメントに関する研究に携わられ、大阪におけるランドスケープ分野の発展に多大な貢献をされた。またこの間、1999年に関西支部事業企画委員長、2002年に評議員、2005年に関西支部総務委員長、2011年に関西支部長、2012年に副会長を歴任され、日本都市計画学会での積極的な活動を通じた関西の都市計画分野における産官学の連携の拡大にも多大な貢献をされた。

学術分野においては、都市の拡大成長が目指された1980年代から、人々の緑との接触行動を通じて緑地空間を時間構造・意識構造・空間構造の3つの側面から捉える新たな計画理論を構築し、生活のなかでの緑の価値を唱えて来られた。また、実務を含めた長年の経験から、生活者の視点から捉えたニュータウン緑地の産官学民の連携による参画型管理運営の仕組みを実践的に構築し、その仕組みを社会に定着させることに貢献された。

さらに、学会活動の面においては次世代の育成に努められた。特に関西支部創立20周年記念事業においては、特別委員会の委員長として主導的な役割を担われ、記念事業として関西都市計画の100年間の歩みの整理とともに、まちづくりに関わる産官学民の交流連携の情報ツールとなる「まちづくりイエローページ」の発行、新しい都市計画教程の成果としての「都市・まちづくり学入門」の出版などを指揮されてこられた。

以上のように、同氏は、緑地計画分野での学術的かつ実践的取り組みにおいて都市の緑の価値を実際の行政計画の中で位置づけるとともに暮らしの中に定着させていくことや、本会での次世代の育成における支援活動において、多大な貢献を果たされており、日本都市計画学会功績賞を授与するに相応しいと判断した。

## 日本都市計画学会 2025 年 年間優秀論文賞受賞論文

(受賞者敬称略)

施設密度に着目したアクティブモビリティの分担率と移動距離に関する数理的分析

田沼 宏行、田中 健一

都市条件に応じた複数公共交通モード併用によるネットワーク設計

竹内 真雄、鈴木 勉

メインストリートに接続する横道景観の印象評価に関する研究 難波・心斎橋・本町を対象として

山東 美心、高木 悠里、嘉名 光市

原発被災地における商業事業者の再開動向に関する研究 福島県楡葉町・富岡町を対象として

小井川 美衣、山梨 裕太、荒木 笙子、荻谷 智大、姥浦 道生

歴史資産を有する小規模地方都市における土地・建物の流通実態 山口県萩市を対象として

馬場 弘樹、藤田 航成

---

## 2025 年 年間優秀論文賞 選考経過

2025 年 年間優秀論文賞は、当該年の 1 月から 12 月に発表された、都市計画論文集掲載論文（全 199 編）の中から優れた内容を有する論文を学術委員会にて慎重に検討を重ね、授賞候補を選定した。さらに候補選定結果を理事会に諮って、5 編の授賞が決定した。

---

### (参考)表彰対象

1. 表彰対象 論文
2. 表彰のための選考対象となる論文

表彰当該年の 1 月から 12 月に発表された都市計画論文

論文名	施設密度に着目したアクティブモビリティの分担率と移動距離に関する数理的分析
著者	田沼 宏行, 田中 健一
授賞理由	本論文は、都市内で人々が最寄り施設を利用する状況を前提に、施設密度がアクティブモビリティ（AM：人力移動手段）の交通分担率および移動距離に与える影響を数理的に解析したものである。都市全体のAM平均移動距離を最大化する最適な施設密度が、人間の距離減衰特性（身体的特性）と符合することを理論的に示し、「人間の身体スケールと都市空間スケールの均衡をとる都市設計が、身体活動を伴う長距離移動を促す」という重要な知見を明確に提示している。この成果はコンパクトシティの意義や効果を理論的に検証するものであり、その点に高い社会的意義が認められる。また、論文中で提示された数理モデルはその活用性・応用性が高いうえ、さらに将来的に発展的な研究に繋がる可能性も有している。以上より、年間優秀論文に相応しいと判断された。

論文名	都市条件に応じた複数公共交通モード併用によるネットワーク設計
著者	竹内 真雄, 鈴木 勉
授賞理由	本論文は、仮定の都市において複数の公共交通モードを想定したネットワーク設計問題を定式化して分析することで、都市の大きさや公共交通モードの導入によって費用や環境負荷の相違を定量的に得ようとする論文である。評価できる点としては、都市構造と公共交通という非常に複雑で難しい関係性を主要な要因を残した上で単純化してモデルを構築した点があげられる。論文本体には現れていない単純化を行う上での様々な試行錯誤が行われて得られた結果であると推察され、現実の都市への適用可能性を高めることに貢献したと評価する。以上より、年間優秀論文に相応しいと判断された。

論文名	メインストリートに接続する横道景観の印象評価に関する研究 難波・心斎橋・本町を対象として
著者	山東 美心, 高木 悠里, 嘉名 光市
授賞理由	本論文は、国内都市の街並みを印象づけている横道景観のあり方に関して、歩きたいと感じさせる構成要素を明らかにしたものである。評価できる点としては、(1)今後の国内都市空間の魅力向上に資する内容で継続研究として発展可能性が高いこと、(2)模範的な手法・手段を踏んでいることである。これらの成果は、重要な示唆を有し、高く評価されている。以上より、年間優秀論文に相応しいと判断された。

<b>論文名</b>	原発被災地における商業事業者の再開動向に関する研究 福島県楡葉町・富岡町を対象として
<b>著者</b>	小井川 美衣, 山梨 裕太, 荒木 竹子, 苅谷 智大, 姥浦 道生
<b>授賞理由</b>	本論文は、文献調査およびヒアリング調査等を通じて、原発被災地における事業者の再開動向を長期的な時間軸で分析し、再開プロセスの特徴と事業継続の実態を緻密に明らかにした研究である。特に評価すべき点は、商業事業者の再開傾向を5つのパターンに類型化し、そのうち「町内で再開した3パターン」に該当する事業者に対して詳細な聞き取り調査を行い、再開や廃業に至る意思決定の過程、および事業内容の変更に関する実態を丁寧に把握している点である。また、除染や復興事業の進捗に伴い商業需要が刻々と変化する原発被災地の事例研究を通して、行政や事業者が柔軟に対応することの必要性・重要性を実証的に示しており、地方都市での大規模災害を中心に今後の復興政策に対して重要な示唆を与えている。以上より、年間優秀論文に相応しいと判断された。

<b>論文名</b>	歴史資産を有する小規模地方都市における土地・建物の流通実態 山口県萩市を対象として
<b>著者</b>	馬場 弘樹, 藤田 航成
<b>授賞理由</b>	本論文は、歴史的なまちなみが既存住宅価格に与える影響を実際の取引価格を基にヘドニック・アプローチによって推計した論文である。評価できる点としては、第一に、実際の取引価格を分析に用いたことにより、既往研究とは異なる結果を導出した点が挙げられる。第二に、既存住宅の流通が相対的に少ない地方都市において、既存住宅の実際の取引価格の情報を地道に、有意な分析結果が得られる水準まで収集している点が挙げられる。それに伴い、歴史的なまちなみと既存住宅の関係性を複数の要素で整理し、各要素が取引価格に与える影響を分析しており、歴史的まちなみが広がる地区の都市計画的な特徴が既存住宅の価格にどのように影響しているのかを考察している点も興味深い。以上より、年間優秀論文に相応しいと判断された。